

発達支援研究所ホームページ <https://smart-kids.co.jp/lab/>

スマートキッズプラス押上

子どもたちは作業を分担し、「かくし部屋の絵を描く班」「おふとんの絵を描く班」「子どもの絵を描く班」の3つの班に分かれて取り組み、アイデアあふれる教室が出来上がりました。

きょうだい児を含む家族支援の在り方

所員 小島 花観

夏の暑い盛り、皆さまお元気でお過ごしでしょうか。年々暑さが増していき、地球が微熱状態になっている日も少なくありません。毎年夏になりますと、「きらっと」の原稿依頼が届き、もう1年経ったのかと月日を早く感じる今日この頃です。今回いただいたテーマは「きょうだい児を含む家族支援の在り方」についてでした。このテーマでいざ書こう！となった時、支援者として活動していた数年前のことを思い出しました。臨床心理士として駆け出しだった私は、「支援者として一人前になるぞう」という気持ちで日々の業務に望んでいたのですが、蓋を開けると、支援をしているお子さまやご家族に沢山のことを教えていただき、私の方が助けられ、感謝の日々でございました。今も関わってくださった皆さまのお顔を思い出しては、「元気にしてるかしら」「熱中症に気をつけてくださいね」と胸に手を当てております。

さて、当時の私は支援の一環としてあがってくる「家族支援」というテーマの重要性に、日々頭を抱えていました。もちろん、支援の対象となるお子さまへのサポートは最優先の仕事です。一方で、その子どもたちの生活の土台となるのは、ご家族です。「保護者支援」という言葉を耳にされた方もいらっしゃるかと思います。これは支援職の中でも大切にされ、専門職たちが学び続けている大きなテーマのひとつです。当時の私は、まだ未熟者でしたから、どう支援として実施していけばいいのか手探りをしておりまして、現場の皆さまや専門職の諸先輩方と何かと膝を突き合わせては、話し合いをし、日々勉強をさせていただいておりました。（今もまだ勉強中の身ではございますが）

一方で、「きょうだい児」への支援は、当時はまだ発展途上の分野だったと記憶しております。支援の場で保護者の方にお会いすることはあっても、ごきょうだいと接する機会は決して多くなかったように思います。

ここに出てきた「きょうだい児」という言葉の定義を説明します。「きょうだい児」とは、障害や重い病気を持つ兄弟姉妹がいる子どもを指します。つまり、家族支援の対象になりえるのです。しかし、「障害のあるきょうだいがいるから」と周囲から偏見の目で見られたり、親からの接し方に差を感じて寂しさを抱えたり、「自分がしつかりしなければ」と無理をして、知らず知らずに心の負担を抱えたりと、「きょうだい児」ならではの葛藤や悩みを抱えやすいために、理解されにくく、かつ保護者の方ほど表に出てくることがないために、支援が後手に回りやすいと言わざるを得ませんでした。



しかし、近年では、きょうだい児支援の取り組みが少しずつ広がってきています。たとえば、厚生労働省では2015年から、自治体の任意事業として「きょうだい児を含む患者・家族の相互交流事業」を展開しており、各地で交流会が行われています。こうした交流会では、当事者同士が気持ちを分かち合い、「自分だけじゃなかった」と感じることができるのが大きな利点です。情報交換ができることはもちろんですが、「共感できる誰かがいる」という心の支えは、何よりも大切な効果だと言えるでしょう。

また、きょうだい児やご家族を対象とした相談支援サービスも増えてきています。なかには、匿名で相談できるものや、オンラインでのやりとりが可能なものもあります。「大勢の前では話しづらい」という方には、こうしたサービスをそっと利用してみるのも良いかもしれません。

またスマートキッズでは、児童発達支援、放課後等デイサービス利用者の家族支援として、スタッフと面談することができます。この面談はオンラインでも利用でき、ご兄弟姉妹に関するご相談も可能となります。お困りの際は、スマートキッズのスタッフにお声がけください。



今回このテーマでコラムを書くにあたって、「きょうだい児」という言葉で検索をしてみました。すると、漫画や記事、コラムのテーマとして多く取り上げられており、数年前よりもずっと認知が広がっていることに驚かされました。それだけ多くの方が関心を持ち、必要性を感じているという証でもあります。だからこそ、これからより研究され、支援のあり方を考える必要のある分野だとも思います。まずはこの「きょうだい児」「家族支援」という言葉をより多くの方に知っていただきたいと思っております。そして、必要な時には「支援を受けてもいい」と思っていただけだと、心から願っています。

この願いは、もしかすると、かつて支援者だった私のわがままかもしれません。けれど、私は、お子さまやご家族のことを本気で案じ、全力で寄り添うために思案をし続ける支援者たちがたくさんいることを知っています。保護者の皆さまの愛情は、もちろんお子さまにとってかけがえのないものです。しかし、保護者も一人の人間であり、身体はひとつしかありません。どうか、支援者を「手数のひとつ」として、ご遠慮なく頼ってください。一緒に悩み、一緒に考える、それが支援者の大事な仕事なのです。



<プロフィール>

所員 小島 花観（こじま はなみ） 臨床心理士・公認心理師

心理士として、医療現場、福祉の現場などに勤め、大人から子どもまで様々な方を対象に心の支援に携わってまいりました。現在は研究分野で心の健康について考える日々を送っています。今までの経験や知識を活かし、本研究所に参加することで、子どもたちや保護者様のお役に立つことができるのであれば、これ以上の幸いはございません。